

# 天王塚山古墳発掘調査現地説明会

和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課  
和歌山市小松原通一丁目 1 番地 073-441-3731

## はじめに

天王塚山古墳（通称：天王塚古墳）は、6 世紀中頃に築かれた前方後円墳です。昭和 39 年に和歌山県教育委員会と関西大学により発掘調査が行われ、全国でも 2 番目の高さを誇る 5.9m 横穴式石室の調査は、当時大きな調査成果として取り上げられました。

その後、天王塚山古墳の墳丘は樹木や竹林に覆われ、古墳の保存や活用について心配される状況にありました。こうした状況をうけ、和歌山県教育委員会では、平成 27 年 7 月よりこの未指定の大型古墳を特別史跡として保護するべく、必要な墳丘の範囲確認調査や測量調査を実施してきました。今回の調査では、後円部（1 トレンチ）、前方部（2 トレンチ・4 トレンチ）、くびれ部（3 トレンチ）に調査区（トレンチ）を設定しています。

## 調査成果

発掘調査の結果、各トレンチにおいて古墳の墳丘裾を確認しました。これにより天王塚山古墳は、全長 88m の前方後円墳であることが明らかになりました。また、墳丘は、後円部、前方部でテラスと段築 2 段を確認し、古墳の平面形や立面形を復元する情報を得ることができました。

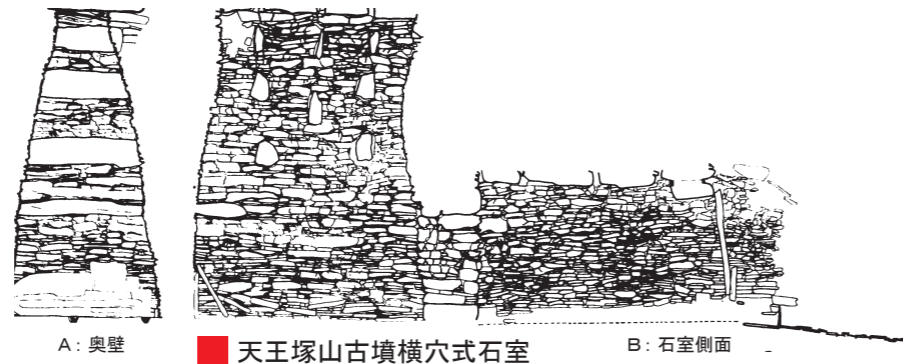
墳丘の構造は、後円部および前方部は、墳丘の 1 段目まで山を利用し、その上に墳丘を築造していることがわかりました。古墳の周囲には平坦面が広がることから、山の頂部を利用して古墳が築造されたと考えられます。山（地山）を削り出し、盛土により古墳を築いたことがわかります。この古墳の盛土の中には、弥生時代の土器や石器も多く含まれており、山頂には、弥生時代の集落が存在していたと考えられます。

一方、葺石や埴輪、造出、基壇などの外表施設については認められず、古墳時代の遺物の出土はごくわずかです。

## まとめ

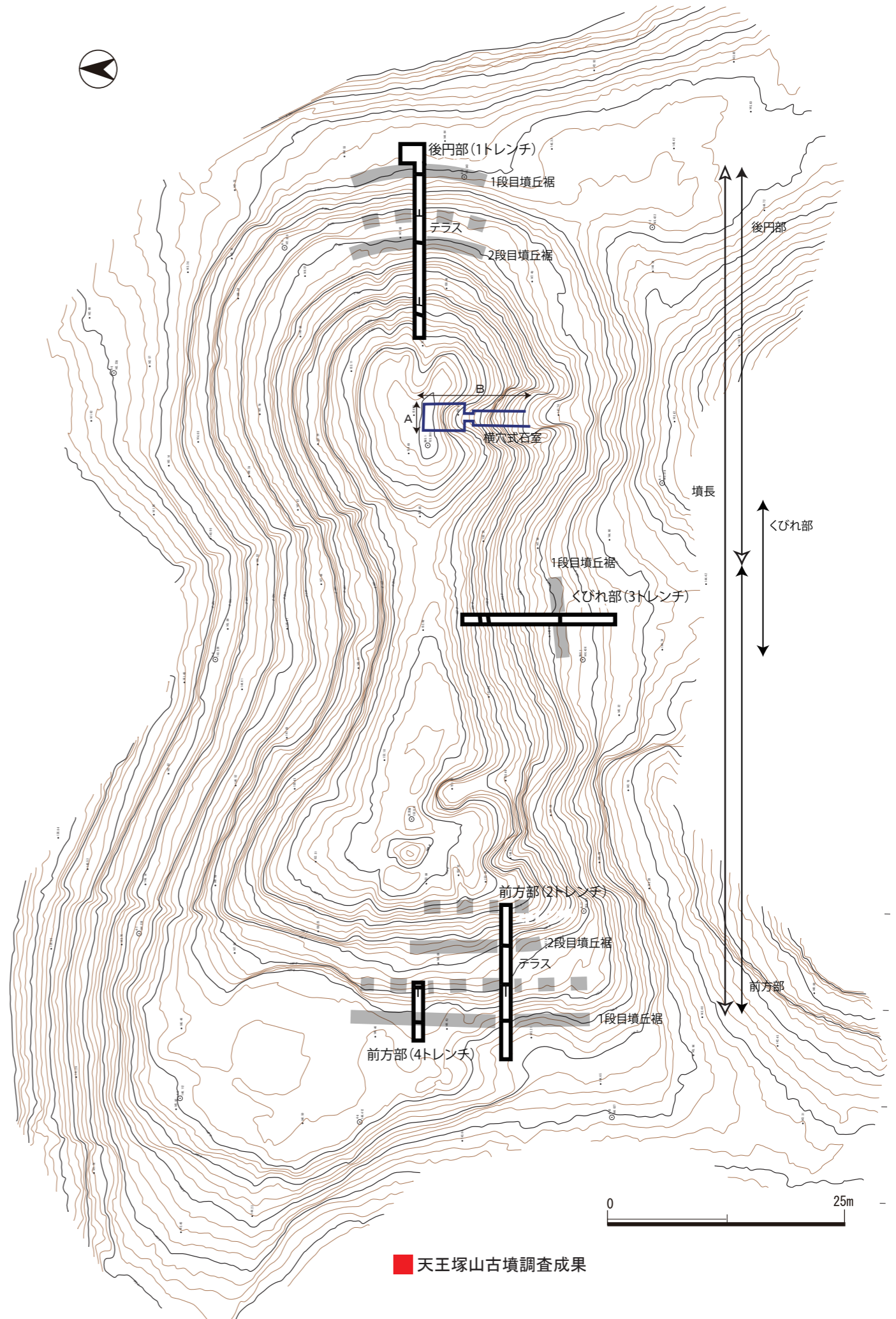
今回の発掘調査により、天王塚山古墳は、和歌山県内最大の前方後円墳であることが判明しました。県内の大型古墳については天王塚山古墳の全長 88m を頂点とし、それ以下の古墳の規模には段階差が認められることから、古墳の規模は葬られた人物の階層を示すものと考えられます。

これまでの発掘調査により天王塚山古墳は、6 世紀中頃に築かれたと考えられていますが、この時期に大型の前方後円墳が造られる地域は全国でも少なく、記紀に記された古代氏族紀氏の繁栄を示す証拠といえます。



## 和歌山県内の主要古墳の規模

| 順位 | 名前                | よみ              | 墳長  | 基壇・周濠    | 所在                       | 時期     |
|----|-------------------|-----------------|-----|----------|--------------------------|--------|
| 1  | 天王塚山古墳<br>(天王塚古墳) | てんのうづかやまこふん     | 88m | -        | 和歌山市吉礼・下和佐<br>: 岩橋千塚古墳群  | 6 世紀中葉 |
| 2  | 車駕之古墳             | しゃかのこしこふん       | 86m | 周濠(106m) | 和歌山市木ノ本                  | 5 世紀前葉 |
| 3  | 大日山35号墳           | だいにちやまさんじゅうごうふん | 86m | 基壇(105m) | 和歌山市岩橋・井辺<br>: 岩橋千塚古墳群   | 6 世紀前葉 |
| 4  | 井辺八幡山古墳           | いんべはちまんやまこふん    | 70m | 基壇(88m)  | 和歌山市井辺・森小手穂<br>: 岩橋千塚古墳群 | 6 世紀前葉 |
| 5  | 大谷山22号墳           | おおたにやまにじゅうにごうふん | 70m | 基壇(80m)  | 和歌山市岩橋・鳴神<br>: 岩橋千塚古墳群   | 6 世紀前葉 |
| 6  | 大谷古墳              | おおたにこふん         | 70m | -        | 和歌山市大谷                   | 5 世紀末葉 |



## 岩橋千塚古墳群とは

紀ノ川下流南岸の岩橋山塊は、中央構造線に沿って摺曲作用を伴って隆起した標高約 150m の丘陵で、周辺には 800 基以上の古墳が現存しています。国内では最大規模の群集墳で、「岩橋千塚古墳群」と呼ばれており、昭和 27 年には国の特別史跡に指定されています。国内の特別史跡は 61 例であり、そのうち古墳群の指定は岩橋千塚古墳群と宮崎県さいとぼるこふんぐんの西都原古墳群のわずか 2 例しかありません。古墳群の中心部は史跡公園「紀伊風土記の丘」として整備・公開されています。

古墳群中には、箱式石棺・竪穴式石室のほか、石棚や石梁をもつ特異な構造の横穴式石室が多数みられ、古くから研究者の注目を集めてきました。これらの施設は岩橋山塊で産出する結晶片岩の石材で造られており、古墳が密集して築かれた一つの要因だと考えられます。石梁をもつものは 23 基あり国内で唯一です。天王塚古墳には石梁が 8 本もあり 5.9m という全国第 2 位の高さの石室が崩壊しないように支えています。石棚を持つ横穴式石室は全国で約 150 基ありそのうち 43 基が岩橋千塚古墳群に集中しています。古墳の築造時期は 4 世紀末頃から 7 世紀中頃にかけてで、6 世紀後半頃がピークにあたります。

### 【古墳を築いた人々—古代豪族紀氏—】

これらの古墳の築造集団として、日本書紀や古事記に記されている古代豪族紀氏が想定されています。紀氏は出自等不明な点が多いのですが、造船技術と航海技術に長け、朝鮮半島に度々出兵したことが記されており、それを物語るように紀ノ川下流域では、朝鮮半島製と推定されている馬冑や金製勾玉・陶質土器・韓式系土器などが古墳や遺跡から出土しています。岩橋千塚古墳群の西側の平野部にはひのくまじんじや日前神社とくにかがすじんじや国懸神社が存在し、周辺には古墳時代前期から整備されていたといわれる宮井用水が流れ、古代からの広大な条里地割が現在も痕跡をとどめています。このような豊かな水田地帯が人々の生活を支えていたと考えられます。日前神社のすぐ西隣の県立向陽高校の校庭から県内最古の 4 世紀前半代の前方後円墳である秋月 1 号墳が発見されています。当時は集落に近い微高地に古墳が築かれていたようです。やがて 4 世紀末頃から 5 世紀初頭に花山などの集落見下ろす丘陵部に古墳が築かれ始めます。条里の面積や文献資料から当時の周辺の人口が約 8000 人前後だという説もあります。

### 【古墳の変遷】

岩橋千塚古墳群は地形的条件と過去の調査経緯から 10 地区に分けられます。この中で、古墳群形成期にあたる 4～5 世紀の前期・中期古墳は北部及び西部の花山・大谷山・井辺前山地区に多く、造墓数が飛躍的に増加する 6～7 世紀の後期古墳は前山 A・B 地区や井辺・寺内地区に多くみられます。全長 30m 以上の前方後円墳のほとんどが山頂の稜線上に立地し、小型の前方後円墳と大型の円墳は支尾根上に立地し、小型の円墳は谷状の部分に立地する例が多いのですが、7 世紀になると大型方墳の首長墓は井辺地区の谷筋に築かれています。








前山 A67 号墳 横穴式石室 石障



大谷山 16 号墳 横穴式石室 石梁・石棚

古墳群中の当時の首長墓である盟主墳は、全長 50～100m 前後の前方後円墳から 40m 前後の円墳、方墳へと形態が変遷しており、所在地も各古墳群に分散しています。大きな集団の中でも紀氏以外にもいくつかの氏族がおり、また各氏族の中にも分派があり、それぞれに墓域を定めて築造していたのでしょう。詳細な古墳の築造時期が不明ですが、現時点では首長墓の変遷は以下のように推定されます。

《岩橋千塚古墳群周辺古墳の変遷》

| 4C  | 5C  | 6C  | 7C  |   |
|---|---|---|---|---|
| 秋月 1 号墳   | 井辺前山 24 号墳  | 大日山 35 号墳   | 寺内 57 号墳  | 井辺 1 号墳   |
|  |  |  |  |  |
| 前方後円墳<br>(陸橋部有り)  | 前方後円墳<br>(柄鏡形)  | 前方後円墳<br>(造出し有り)  | 円墳  | 方墳  |
| 粘土槨   | 粘土槨・竪穴式石室   | 横穴式石室   | 横穴式石室   | 横穴式石室   |
| 壺形土器祭祀  | 壺形土器祭祀  | 埴輪祭祀  | 墓前祭祀  | 墓前祭祀  |
| 平野微高地   | 丘陵表尾根   | 丘陵表尾根   | 丘陵裏尾根   | 丘陵裏谷筋   |

現在把握されている古墳数は約 800 基で、前方後円墳が 31 基、方墳が 19 基で、その他が円墳です。内部施設が判明している古墳が半数以上あり、内訳は横穴式石室が約 68%、竪穴式石室が約 24%、箱式石棺が約 5%、粘土槨や粘土床、礫槨などが約 3%です。年代的には、粘土槨・箱式石棺→竪穴式石室→横穴式石室と変遷がたどれます。

しかしながら、同一墳丘内に異なる種類の内部施設を複数もつ古墳も多数みられます。

【古墳出土遺物】

- A 埴輪……6 世紀代になると大型の首長墓を中心に多種多様な埴輪が古墳上に樹立されます。墳丘上で祭祀がとり行われていたものと推測されます。大日山 35 号墳では、日本初の「翼を広げた鳥形埴輪」「両面人物埴輪」「胡籙形埴輪」(胡籙：騎馬用の弓矢入れ)が出土しています。
- B 土器……国内産の須恵器や土師器の甕や壺、高坏などが多数副葬されていますが、朝鮮半島製の陶質土器や韓式系土器もかなり多く出土しています。
- C 装身具…首飾りと考えられる金・銀の空玉や色鮮やかな瑪瑙・水晶・ガラスなどの玉類や、銀製や金銅製のピアスである耳環も多く出土しています。
- D 武器等…鉄刀・鉄剣・鉄鏃・鉄鉾・鉄槍・甲冑の一部などが出土しています。
- E 工具等…鉄製の鋤先や鉋などのほかに鍛冶工具一式も大日山 70 号墳から出土しています。



大日山 35 号墳 埴輪復元状況



大日山 35 号墳 翼を広げた鳥形埴輪



首飾り・耳環